(仮称)串本町立串本統合小学校基本設計・実施設計業務

基本設計書　抜粋

2023年8月　　株式会社　綜企画設計

1-1　基本方針・計画概要

基本方針
『 つながる学校 』

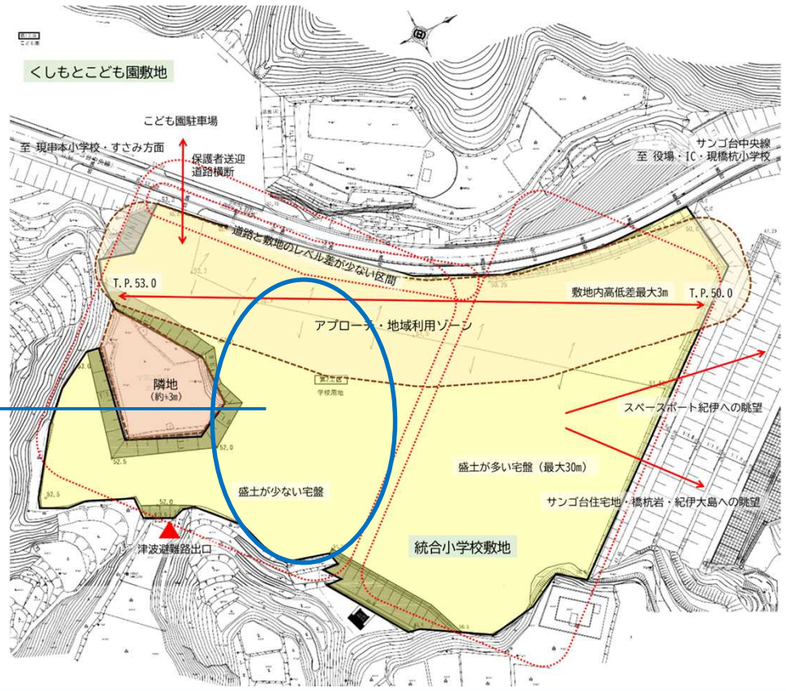
(1)新しい時代の学びとそのための施設環境
・教室と廊下を中心とした構成から、学校全体が学びの場として多様な活動を前提とした構成の施設とする。
・学級単位だけでなく、学年を超えた学びが可能な施設とする。
・串本統合小学校を中心に、対面での学習とオンラインでの学習の連携を組み合わせる等の、様々な活動に対応できる施設とする。
・教職員の知識共有を促し、教職員同士の繋がりを生む施設環境を整える。
・様々な活動を行いやすくするために、板書、映像投影、ICT環境、児童が自由に工作等の活動ができるよう、建築環境が整った施設とする。

(2)学校時間をふくめた育ち、生涯を通じた学びの拠点となる学校施設
・学校活動のみならず、家庭や地域の活動の場として学校が活用できるよう、図書館や体育館の開放がしやすく、同時にセキュリティー確保が容易な構成の施設とする。
・学校と施設をサンゴ台中央線から入りやすく、かつ近隣のくしもとこども園との連携を取りやすい配置計画とし、地域が交流がしやすい施設とする。

(3)南海トラフ地震等の災害に備えるレジリエントなまちづくりとその核となる学校施設
・学校施設を災害時の避難所とする。
・災害後に学校が早期再開しやすい構成の分棟形式とした施設とする。
・建物配置を盛土の少ない箇所に配置し、土砂災害を考慮した配置計画とする。

(4)豊かな海と緑に恵まれた自然を生かし、新しい時代のシンボルとなる学校施設
・串本町の豊かな自然を積極的に取り込み、中庭やグランドを積極的に学びの場として活用できる施設とする。
・地元資源、地元産業の活性化を図り、紀州産木材を積極的に利用する施設とする。
・地域住民から、学校活動の様子が感じられる開放的な施設とする。
・串本町のスペースポート紀伊のロケットが見られる眺望を確保し、地域の景観形成や眺望を活かした施設とする。

建物配置



計画概要

・計画敷地　:和歌山県東牟婁郡串本町串本・鬮野川
・敷地面積　:25,377.52㎡
・主用途　　:学校
・建物概要（構造・階数・延べ面積）

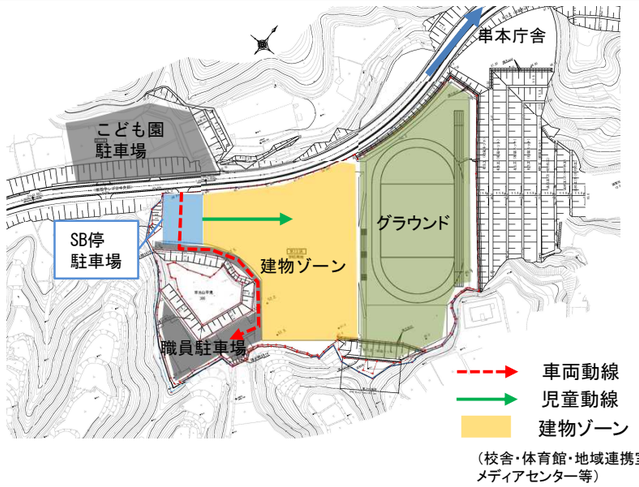
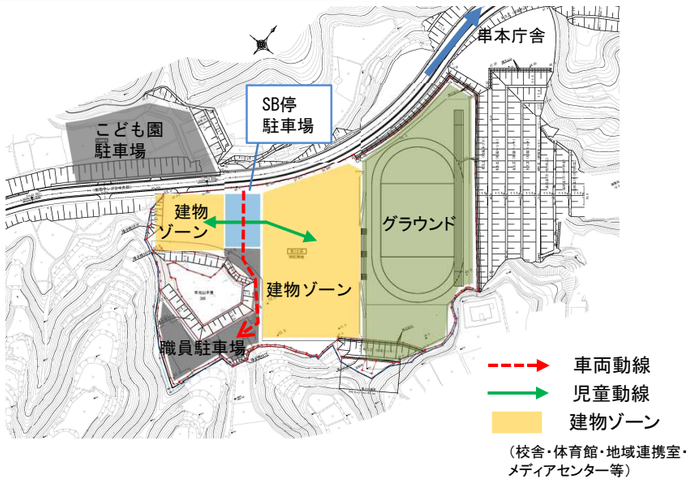
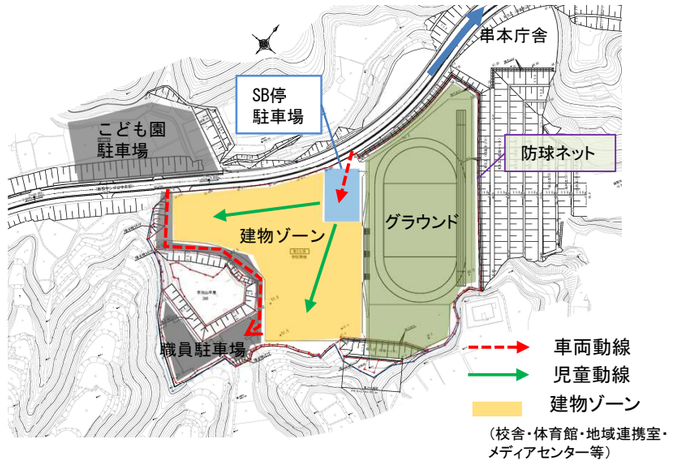
: 教職員コモンズ	— 木造	平屋建て	697.27㎡
: 通級教室、ラーニングコモンズ	— 木造	平屋建て	661.96㎡
: STEAMコモンズ、特別支援コモンズ	— 木造	平屋建て	763.09㎡
: 学年コモンズ	— 木造	平屋建て	905.11㎡
: 渡り廊下	— 鉄骨造	平屋建て	120.91㎡
			3,148.34㎡
: 体育コモンズ	— 木造	平屋建て	986.11㎡
			986.11㎡
: 学童保育施設	— 木造	平屋建て	357.74㎡
			357.74㎡
: 屋外トイレ	— 鉄筋コンクリート造	平屋建て	10.26㎡
: キャノピー	— 鉄骨造	平屋建て	109.20㎡
: 電気室	— 鉄筋コンクリート造	平屋建て	50.00㎡
: ポンプ室	— 鉄筋コンクリート造	平屋建て	35.75㎡
: 学校用倉庫	— 鉄筋コンクリート造	平屋建て	49.00㎡
			254.21㎡

広域地図

敷地周辺地図

2-1 ゾーン配置検討

切土部分に建物ゾーンを、盛土部分にグラウンドを配置する。
スクールバス停（以下SB停）及び一般駐車場の配置検討を行う。

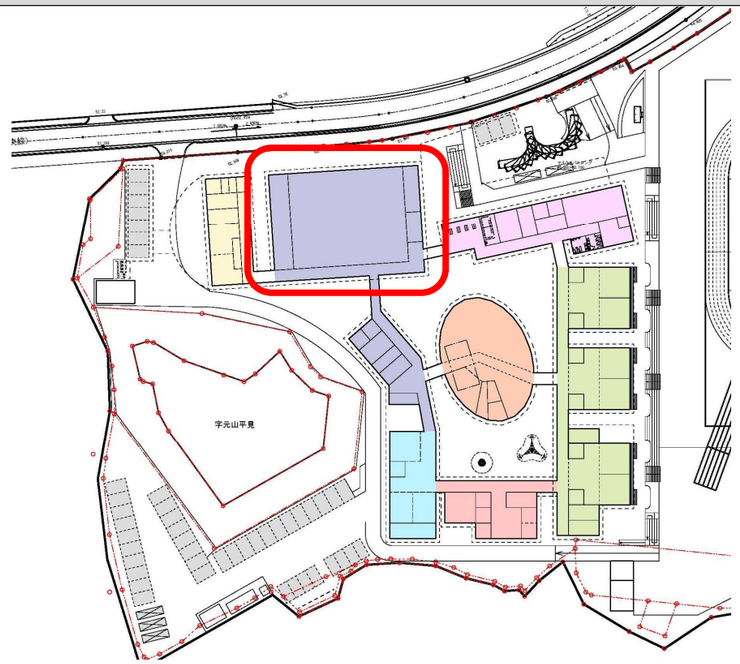
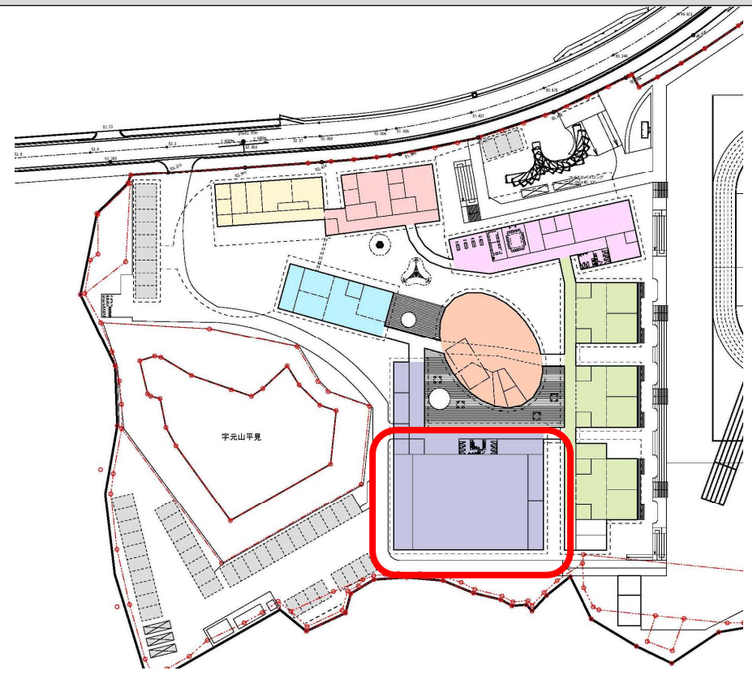
		A		B		C	
レイアウト							
計画内容		駐車場・SB停を南西（こども園）側に配置		駐車場・SB停を中央に配置		駐車場・SB停を北（グラウンド）側に配置	
		職員駐車場を南側に配置					
比較事項	1 道路から駐車場の見通し	△	こども園駐車場と出入り口が近く、注意が必要である。	◎	まっすぐな道路のため、見通しがきく。	○	やや曲がっている道路だが、見通しがきく。
	2 建物ゾーンとの関係	◎	建物ゾーンを敷地中央にまとまって確保できる。	△	建物ゾーンが分断される。	◎	建物ゾーンを敷地中央にまとまって確保できる。
	3 児童動線との関係	◎	児童動線と車両動線は交差しない。	×	児童動線が車両動線と交差する。	◎	児童動線と車両動線は交差しない。
	4 グラウンドとの距離	△	距離が遠く、動線の検討が必要。	△	距離が遠く、動線の検討が必要。	○	グラウンドに面しているので、地域開放する際使い勝手がよい。
	5 こども園との関係	○	こども園に近いため、それぞれに通う子どもを迎えに行く等、小学校との連動が図れる。	○	こども園に近いため、それぞれに通う子どもを迎えに行く等、小学校との連動が図れる。	△	徒歩では距離があるため、小学校との連動が薄い。
	6 車両動線の全体長さ	○	職員駐車場へのルートとSB停が重複しているため、全体車両動線が短い。	○	職員駐車場へのルートとSB停が重複しているため、全体車両動線が短い。	△	職員駐車場へのルートが別のため、全体の車両動線が長くなる。
配慮事項	1 悪天候時の建物アクセス	・	串本町は横からの雨が多いため、可能な限り雨に濡れないようSB停・職員駐車場から建物に入るアクセス動線を検討する。				
	2 駐車場の混雑	・	こども園駐車場に近い配置のため、時間帯により混雑が予想される。	・	こども園駐車場に近い配置のため、時間帯により混雑が予想される。	・	出入りに注意が必要なため、時間帯により混雑が予想される。
	3 屋外活動の影響	・	グラウンドと距離があるため、屋外活動の影響を受けにくい。	・	グラウンドと距離があるため、屋外活動の影響を受けにくい。	・	グラウンドに面しての配置となるため、砂埃による車の汚れや球技による車の損傷の可能性が高くなり、防球ネット設置が必要。
評価		○	こども園との連携が最も取りやすいが、出入り口が近すぎるため注意が必要である。 グラウンドとの距離が遠く、地域開放時など不便である。	△	児童動線と車両動線が交差し、児童・利用者の危険性の懸念がある。 建物ゾーンを駐車場が分断するため、施設内の動線の繋がりを築きにくい。	○	屋外活動の影響が大きいため、日常使いの駐車場にするには対策が必要である。 グラウンドに面しているため、地域開放時など使い勝手がよい。

児童の安全を最優先する点とグラウンドを地域開放する点から、C案を基に計画を進める。

2-2 体育コモンズ配置検討

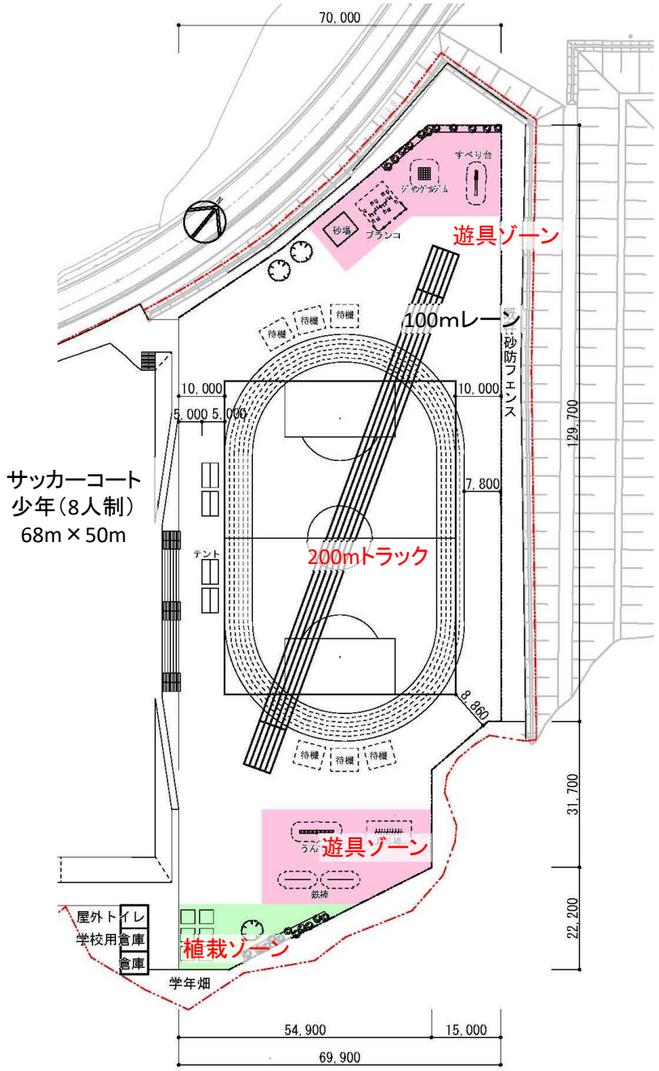
職員室はグラウンドとSB停を視認可能な位置とし、学童保育施設はくしもとこども園に近い位置に配置する計画とする。
体育コモンズの配置検討を行う。

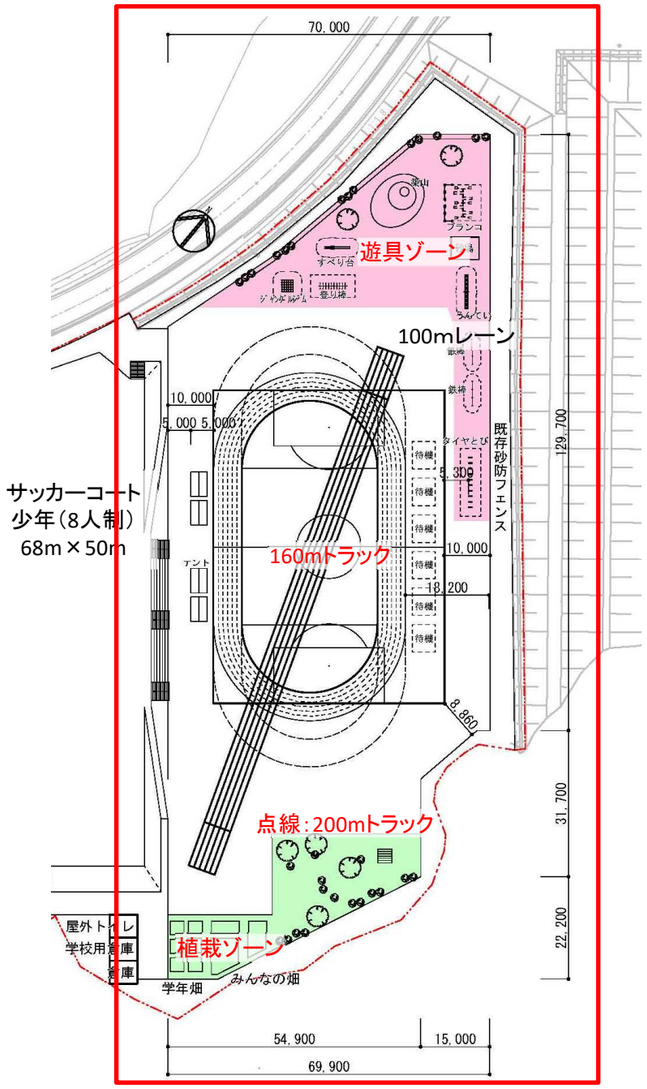
凡例
- :教職員コモンズ
- :特別支援コモンズ
- :STEAMコモンズ
- :体育コモンズ・地域センター
- :学年コモンズ
- :通級教室
- :ラーニングコモンズ
- :学童保育施設

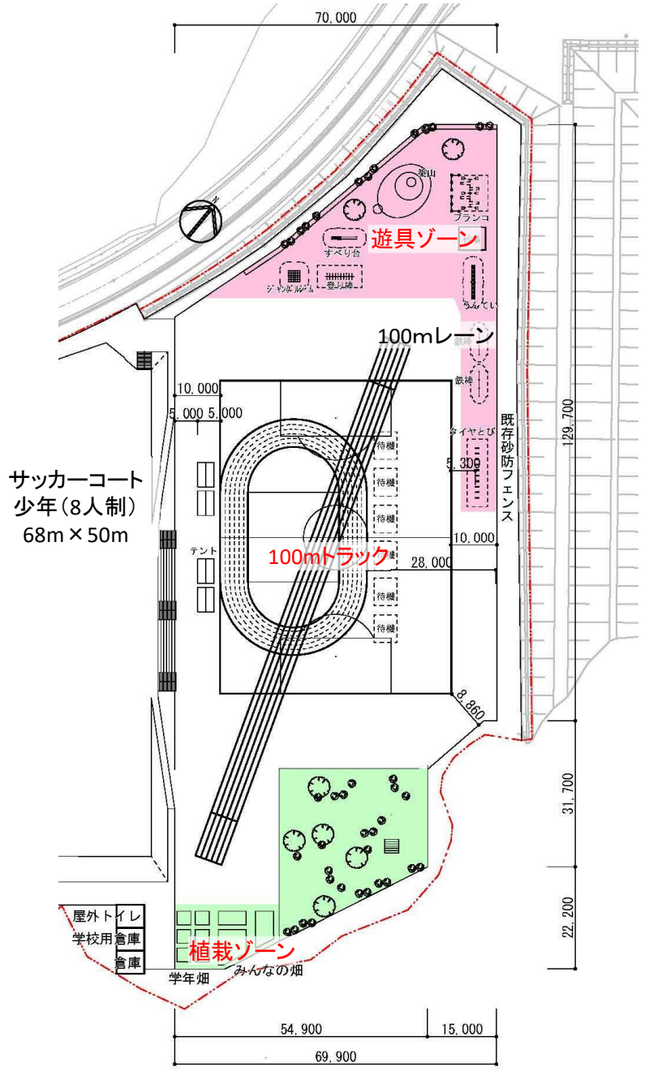
	A案	B案
レイアウト		
計画内容	・ 体育コモンズを道路側に配置	・ 体育コモンズを奥まった位置に配置
切土・盛土の関係	△ 盛土位置に配置するため、軽い構造や杭等の対応が必要。	◎ 切土位置に配置するため、構造の自由度がある。
ゾーニング	◎ 体育コモンズと学童保育施設がまとまっているため、地域開放ゾーンと小学校ゾーンが明確に分かれており、管理しやすい。	△ 体育コモンズが奥まった位置に配置されているため、地域開放ゾーンと小学校ゾーンが混在している。
セキュリティ	◎ 小学校昇降口と位置が近いため、少ない人手で管理しやすい。	△ 小学校昇降口と離れており、管理するのに人手がかかる。
児童動線	△ 学年コモンズと距離があり、最も遠い教室は中高学年である。	○ 学年コモンズに隣接しているため、最も遠い教室は低学年である。
職員動線	◎ 教職員コモンズに隣接しているため、けがや事故の際に対応しやすい。	△ 教職員コモンズと距離があるため、けがや事故の際に対応に時間がかかる。
駐車場との関係	△ 体育コモンズと駐車場の距離があるため、地域利用者は歩く必要がある。	○ 体育コモンズと駐車場の距離が近いため、歩く距離が少ない。
学童保育施設との関係	◎ 隣接しているため、雨天時の保育場として利用しやすい。	△ 距離があるため、雨天時の保育場として利用しにくい。
災害時の対応	◎ 道路側のため、物資の供給がしやすい。	△ 奥まった位置のため、物資の供給に時間がかかる。
総合評価	◎	△

地域開放時のセキュリティの確保や災害時の使い勝手の点から、A案を基に進める。

2-3 グラウンド大きさ検討







			200mトラック配置		200m(縦長)・160mトラック配置	100mトラック配置
検討事項	1	行事への影響	△	観客・待機スペースが確保しにくい。	○	観客・待機スペースが十分確保できる。
	2	遊具配置	○	まとまった配置が難しい。基本遊具以外の配置が難しい。	◎	まとめて配置が可能。基本遊具以外の遊具が配置可能。
	3	防災ファニチャーの配置	△	余地が少ない。	○	余地がある。
	4	植栽配置	○	学年畑、花壇のみ配置可能。	◎	学年畑、花壇や他の菜園が配置可能。
	5	駐車場の追加	△	追加は困難で、建物ゾーンに収めなければならない。	○	レイアウトによっては配置可能。
評価				200mトラックの配置は可能だが、観客・待機スペースが確保しにくいため、現実的ではない。		トラックの大きさとサッカーコートの配置によって余白スペースが決まる。

基本遊具
・すべり台　・ジャングルジム
・ブランコ　・砂場
・うんてい　・登り棒
・鉄棒(高低)

その他
・タイヤとび　・築山

トラックは、観客・待機スペースが余裕も持って確保可能な160mトラックを採用する。

2-4 配置計画

(1) 基本方針

・校舎ゾーン中央に学びの中心であるラーニングコモンズを設け、中庭を囲うようにチーム・コモンズ（低中高学年・特別支援コモンズ・通級教室）、STEAMコモンズを配置することで、ラーニングコモンズを中心に学校全体がつながる計画とする。
・接道沿いには地域開放及び交流する学童保育施設、体育コモンズ、教職員コモンズを配置し、地域とつながる計画とする。
・平屋建ての計画とし、シームレスな空間のつながりを計画する。
・分棟形式により串本の街並みのスケール感と調和し、学校とまちがつながる計画とする。
・中庭部分を包むような校舎配置と屋根形状で風雨を受け流し、中庭部分の安全な環境を確保する。
・串本の気候を考慮し、雨天時でも濡れずに移動できるよう、棟と棟を繋ぐ廊下は屋内とする。

(2) 配置計画

①教職員コモンズ
・アプローチ広場、昇降口、一般駐車場、グラウンドの様子が把握しやすい位置に配置する。

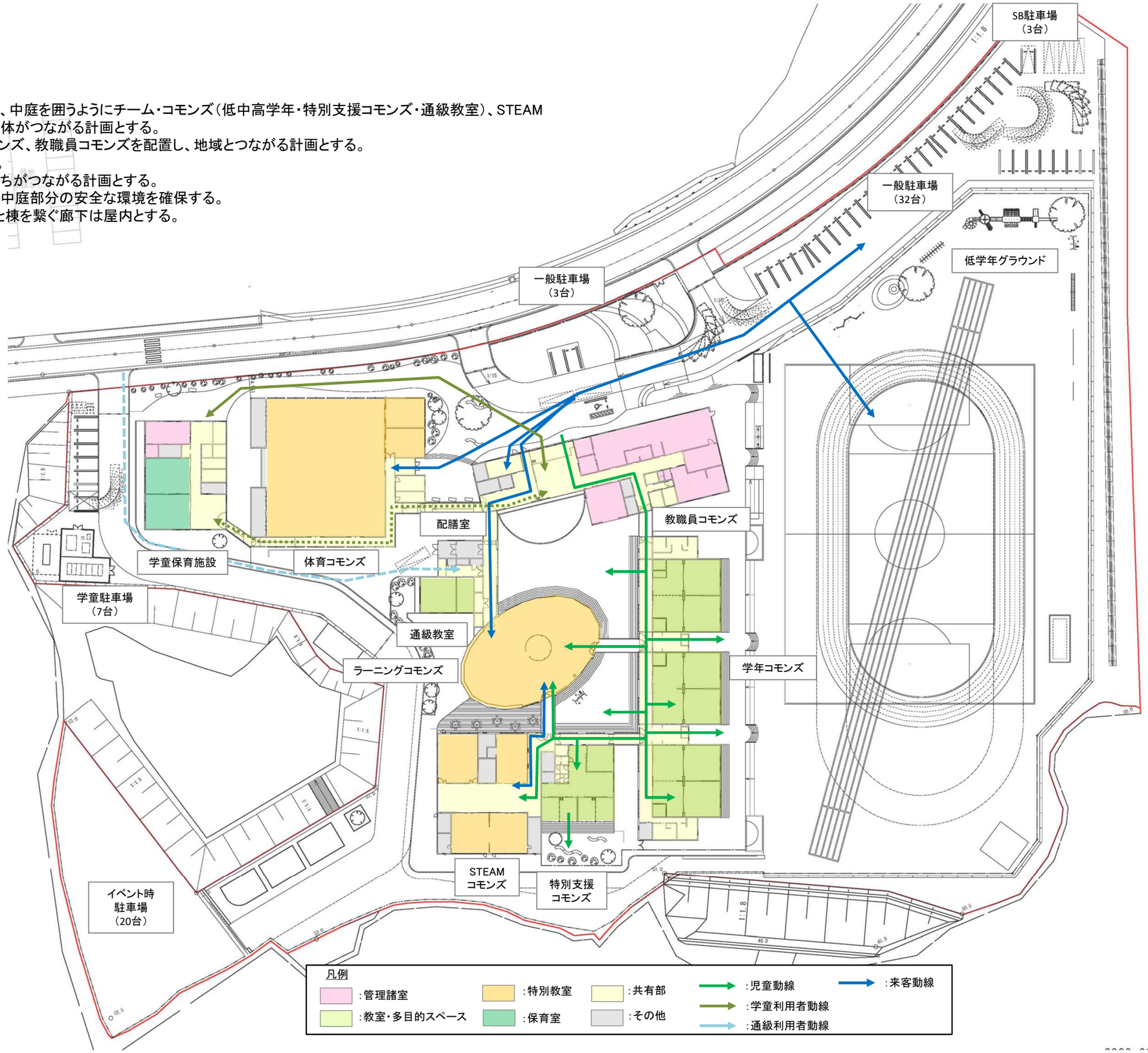
②学年コモンズ
・グラウンドと中庭にすぐ出ることが可能で、管理しやすい位置に学年コモンズを配置する。
・落ち着いた環境が確保でき、気軽に学年コモンズと行き来できる位置に特別支援コモンズを配置する。
・比較的穏やかな環境が確保でき、自校通級の教室からも他校通級の車の送迎動線からも近い位置に通級教室を配置する。

③ラーニングコモンズ
・目線の集まる配置とし、活動の中心として意識づける。
・どのコモンズからも行き来しやすく、気軽に授業や休み時間に利用できる位置に配置する。
・児童の保護者や地域の方の利用を想定しているため、昇降口から分かりやすい位置関係とする。

④STEAMコモンズ
・中・高学年コモンズから行き来しやすく、屋外活動が十分にできる位置に配置する。

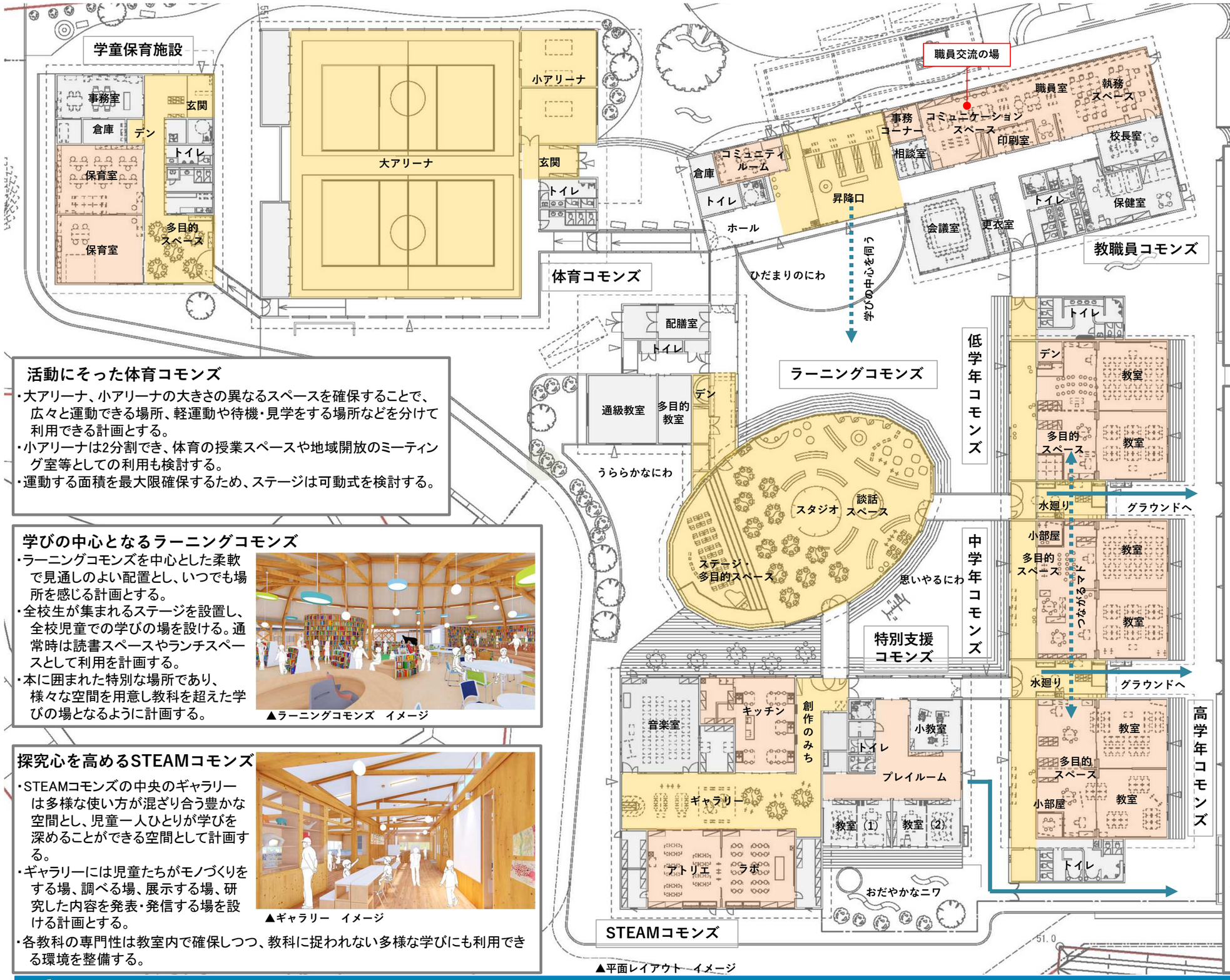
⑤体育コモンズ
・道路に地域活動の様子を伝え、学校と地域をつなげる。
・地域開放や災害時の避難場所となるため、道路から分かりやすい位置に配置する。

⑥学童保育施設
・放課後や長期休暇など学校が開いていない時間・時期の利用を想定し、小学校と学童保育施設で各々でセキュリティを確保しやすい位置に配置する。
・こども園との連携が取りやすい位置に配置する。



2-5 平面計画

「廊下と教室」や「特別な時にのみ利用する特別教室」、「決まった席で働く職員室」など従来の小学校の枠を飛び越えて、
新しい時代の学びとそれに見合った施設を整備する。



▲平面レイアウト　イメージ

凡例
- :オープンな空間
- :セミオープンな空間
- :クローズドな空間

活動にそった体育コモンズ

・大アリーナ、小アリーナの大きさの異なるスペースを確保することで、広々と運動できる場所、軽運動や待機・見学をする場所などを分けて利用できる計画とする。
・小アリーナは2分割でき、体育の授業スペースや地域開放のミーティング室等としての利用も検討する。
・運動する面積を最大限確保するため、ステージは可動式を検討する。

学びの中心となるラーニングコモンズ

・ラーニングコモンズを中心とした柔軟で見通しのよい配置とし、いつでも場所を感じる計画とする。
・全校生が集まれるステージを設置し、全校児童での学びの場を設ける。通常時は読書スペースやランチスペースとして利用を計画する。
・本に囲まれた特別な場所であり、様々な空間を用意し教科を超えた学びの場となるように計画する。

▲ラーニングコモンズ　イメージ

探究心を高めるSTEAMコモンズ

・STEAMコモンズの中央のギャラリーは多様な使い方が混ざり合う豊かな空間とし、児童一人ひとりが学びを深めることができる空間として計画する。
・ギャラリーには児童たちがモノづくりをする場、調べる場、展示する場、研究した内容を発表・発信する場を設ける計画とする。

▲ギャラリー　イメージ

・各教科の専門性は教室内で確保しつつ、教科に捉われない多様な学びにも利用できる環境を整備する。

協働する教職員コモンズ

・児童だけでなく教職員同士や地域と教職員が学び合い、切磋琢磨し、活発に交流できる環境を計画する。
・児童や来訪者の様子が把握しやすく、セキュリティにも配慮し、スクールバス停前に職員室を配置する計画とする。
・職員室という一つの大きい空間の中に執務スペースや休憩・コミュニケーションを図るラウンジ、教材製作スペース、WEB会議を行うスペースを配置し、多様な学びに対応する教職員を支える空間とする。

一緒に学ぶ学年コモンズ

▲教室・多目的スペース　イメージ

・普通教室は2学年1集団の家のようなまとまりのある配置とし、教室と廊下を連続する形で多目的スペースを設け、多様で柔軟な学習を支える計画とする。
・特別支援コモンズは低・中・高学年コモンズと分断するのではなく、穏やかな空気・居場所を確保しつつ、児童同士で交流できる計画とする。

自発的な学びを促す教室コモンズ

・多目的スペースは生活・学習に合わせた大きさや仕様とし、6年間の学びの場として変化を持たせる。
・小部屋やデンといった空間を多目的スペース内に設け、ホワイトボード壁、掲示壁、袖壁を組み合わせ、学びにとって「よい壁」を検討する。

教育のDX化とそのため施設整備

・必要な時に必要な場所で活用できるようにICT環境を整備し、調べ学習や観察・実験のまとめ、児童同士の学び合いに活用し、学習効果を高める計画とする。

2-6　立面計画

（1）　基本方針
・串本のまち並みのスケール感や周囲の豊かな自然環境と調和するように、建物高さやボリュームを抑えた計画とする。
・小学校での活動が串本のまちに地域に広がり調和することで、串本のまちと繋がるような外観を計画する。
・ラーニングコモンズでの活気が学校及び地域に広がっていくような外観を計画する。
・串本町の海をイメージした躍動感ある屋根と水平線をイメージした家並みで建物と自然がつながる計画とする。
・周辺の緑豊かな自然環境や計画する「ニワ」の環境を建物内部に取り込み、学びに集中できる環境づくりを行う。

(2)正面計画
・風雨が激しい地域の特性を踏まえ、児童が雨に濡れないように校舎へ導くアプローチとして、昇降口に大庇を掛ける計画とする。
・大庇は職員室の採光を確保できるよう、大きさや屋根の素材を検討する。

(3)体育コモンズ
・可能な限り高さを抑えた片流れ屋根とし、圧迫感を緩和させるため前面道路側を低くする計画とする。
・隣接する小アリーナと倉庫は用途に適した高さとすることで、周囲の棟との調和を図る。
・地域の人が親しみを持って見守り、利用できる外観とするため、体育館での活動や屋根の架構が周囲から視認できるよう、体育館の下部と上部に開口を設ける計画とする。

(4)その他コモンズ
・教職員コモンズ、学年コモンズ、特別支援コモンズはラーニングコモンズから見た際に、水平線のように軒高さが揃うように計画する。
・ラーニングコモンズ（中庭）に面する廊下は相互に活動が伺えるように、掃出し窓等の開口を設ける。

▲　グラウンドに向かって家並みが揃った学年コモンズ

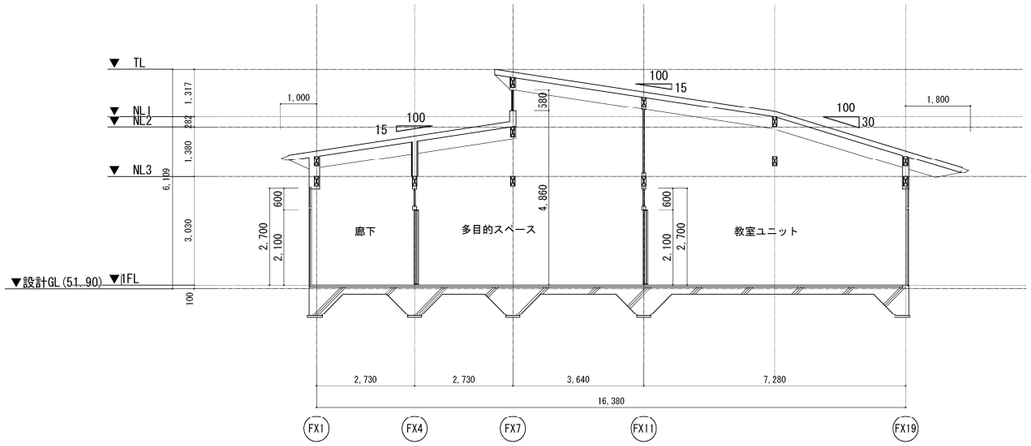
2-7　断面計画

（1）　基本方針
・一体感を演出する大屋根の下に大きな空間を確保する断面構成を計画する。
・様々な活動ができる高い天井を確保する。
・ハイサイドライトにより、光を立体的に採り入れて児童の活動を活性化する。
・木造の建物の軽さを活かしたべた基礎による計画とする。
・木造モジュールを活かした断面計画を行い、材料ロスの少量化を図る。

(2)湿気対策
・串本の地域性より湿度が高いため、床下換気を行わない計画とする。

(3)塩害対策
・海岸から近い敷地のため、外部で使用する金属はが原則、ステンレスもしくはアルミとする。
（ベントキャップや外壁水切り、屋根の2次部材等）

(4)強風対策
・風鳴りや、排気不能に注意して、給気・排気方向の検討を行う。



▲　体育コモンズと学童保育施設

▲　中庭に開いた廊下

2-8 教職員コモンズ計画

（1） 平面計画

①職員室
- ・グラウンドや登下校の児童、来訪者の様子を管理しやすい位置とする。
- ・グラウンドでの緊急時に迅速に対応できるように、グラウンドに直接行き来ができる計画する。
- ・従来の執務スペースと共同利用スペースを設け、作業内容によって使い分けができる計画とする。
- ・リフレッシュ（給湯）スペース、共同作業スペース、印刷室、教材置き場を職員室内に設ける。
- ・事務室を共同作業スペースと隣接することで、職員が少ない状況でも来客対応可能な計画とする。

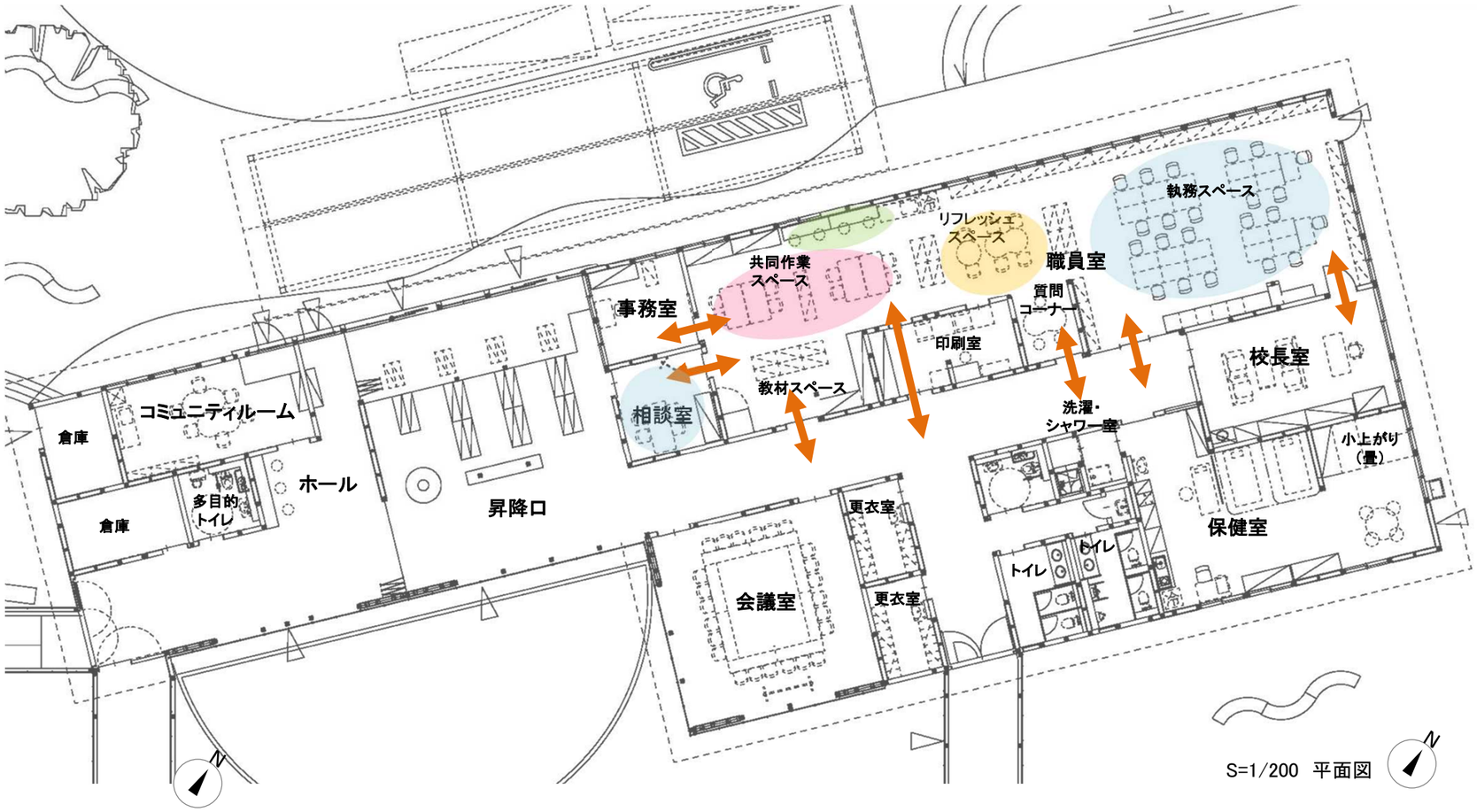
②校長室
- ・職員室に隣接することで、連携が取りやすい計画とする。
- ・グラウンドに面する計画とする。

③会議室
- ・職員室の対面に配置し、教職員が利用しやすい配置とする。
- ・中庭（ひだまりのニワ）を介して、学校のシンボルのラーニングコモンズが見える計画とする。

④保健室
- ・グラウンドに直接行き来ができる計画とする。
- ・建具で仕切ることにより、感染症対策で小上がり部を第2保健室として利用できる。
- ・グラウンドに面する側に足洗場を設置する。
- ・保健室の先生の席は、グラウンドと出入口部が視認可能な位置とする。

⑤昇降口
- ・児童用と地域開放用が隣接する計画とする。

⑥コミュニティルーム
- ・地域の集まりやラーニングコモンズを訪れた方が気軽に立ち寄れるように計画する。
- ・昇降口以外に専用の出入口を設け、休日でも気軽に利用できる計画とする。
- ・地域と繋がるリビングのような計画とする。



S=1/200 平面図

コーナー計画 凡例

個人で ― みんなで

集中して　落ち着いて　活動的に

（2） コーナー・家具計画

①教職員のABW化（Activity Based Working）
- ・従来の「決まった席で働く」職員室から「業務内容やその時の気分に合わせて働く場所を選ぶことができる」小学校を計画する。
- ・執務スペースを省スペース化し、共同作業スペースやリフレッシュスペースを充実させる。

想定）・リフレッシュスペースで先輩職員に相談しながら業務を行う。
- ・共同作業スペースで模造紙を広げて2学年合同で業務を行う。
- ・執務スペースの個人机で集中して業務を行う。
- ・相談室や質問コーナーを利用して、WEB会議を行う。
- ・職員会議をラーニングコモンズで開催する。

▲ ABWの考え方（参考）

②職員室のモジュール化
- ・家具のモジュールを基に、人員数に応じたレイアウト検討を行い、機能的な動線を確保しやすい執務環境を計画する。
- ・本工事対象外になる什器も基本設計段階から検討する。

例）
- 事務机　W1000㎜×D600㎜（机間距離1250㎜）
- 教頭・校長机　W1400㎜×D600㎜（両袖）
- ローキャビネット　W900×D450×H1000

③職員室のワンルーム化
- ・従来壁で仕切られていた印刷室、給湯室、教材庫を出来る限りオープンにし、職員室と一体的に利用可能にすることで、様々な作業を行う職員同士がつながる計画とする。

2-9 学年コモンズ計画

（1） 平面計画

・低学年コモンズ
教室での活動を主体に多目的スペースまで広げた学びを想定する。
音楽や生活科等も行う総合的な学習空間を計画する。
・中高学年コモンズ
教室と多目的スペースを主体にした学びの空間を計画する。

①教室
・24人学級（最大30人）として計画する。
・ICT教育を考慮して、W700×D500＋50（アタッチメント付）の机と机同士の離隔が十分確保できる7.2m×7.2mの空間を計画する。
・多目的スペースを取り込んだ活動を想定。
・移動間仕切りにより教室間の行き来を可能にする計画とする。

②多目的スペース
・教室との延長の学びの場として活用する。
・低学年　：音楽や生活の授業といったクラス単位での使用。
・中高学年：話し合いや協働作業の場としてグループ単位での使用。
・多目的スペースと教室は開放できる建具で仕切ることにより、授業時等の音に配慮する。
・学びはもちろん学年を超えた交流・遊びの空間を計画する。

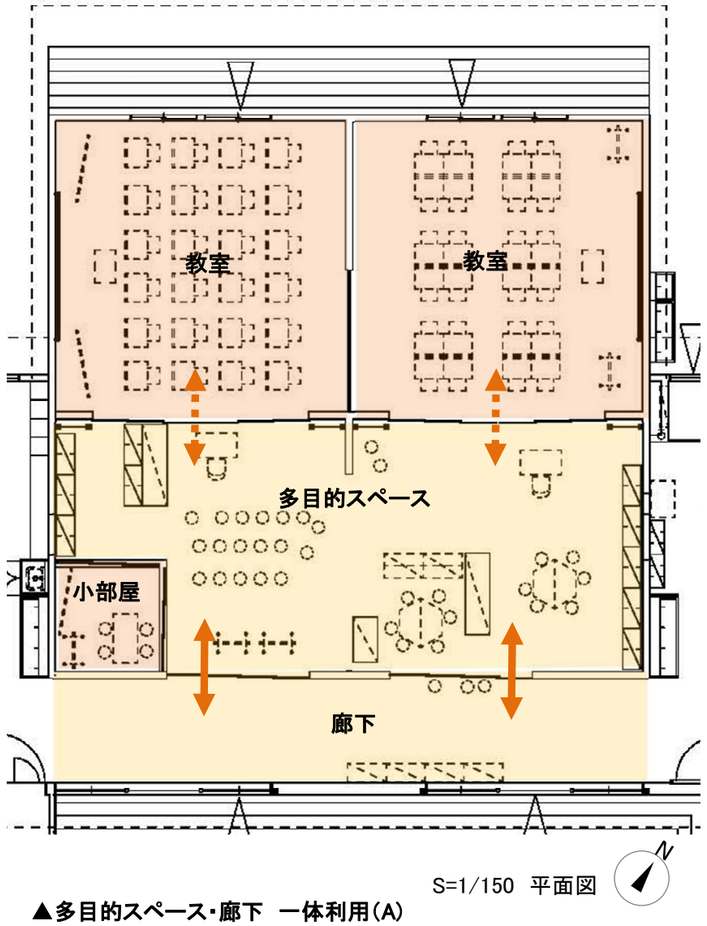
③小部屋
・低学年　：畳の小上がりを計画する。
・中高学年：建具により、音を遮ることが可能である。
個人作業やグループ学習など活動の幅を広げる空間とする。
取出し学習や更衣スペースとして活用可能な計画とする。

④デン（低学年コモンズ）
・低い天井と壁に囲まれた隠れ家のような空間を計画する。

⑤学習コーナー（中高学年コモンズ）
・本に囲まれた子どもたちの隠れ家のような小空間。教室内に設けることでクールダウンスペースにも活用できるよう計画する。

⑥水廻り（低学年コモンズ）
・水洗い場まで廊下等に水をこぼしてしまうことを考慮し、低学年コモンズ内に流しを設置する。

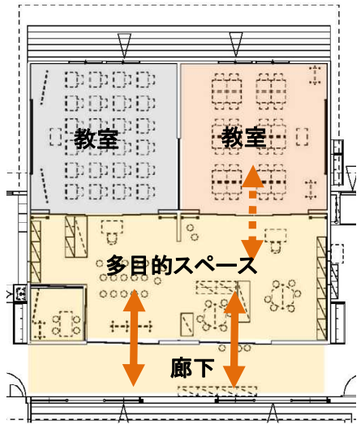
⑦廊下
・通行だけでなく掲示スペースや多目的スペースと中庭と一体となった活動の場として計画する。



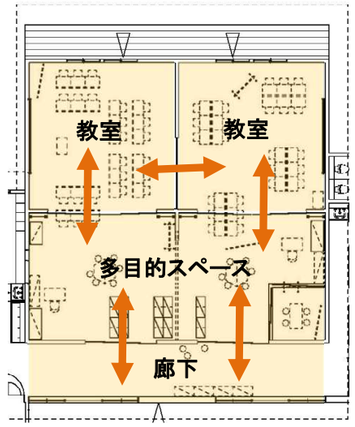
S=1/150　平面図

▲多目的スペース・廊下　一体利用（A）
・多目的スペースと廊下を開放利用する。
・教室と小部屋は建具を半分程度開放する。
・廊下から活動を伺うことができ、児童の集中も途切れない。

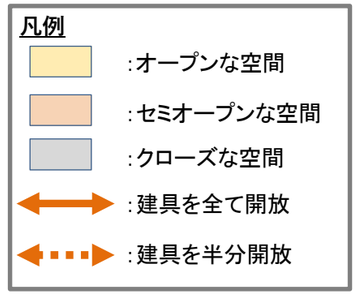
▲個別利用
・2教室とも閉じての利用。
・着替えを行う際は、小部屋を閉じる。



▲多目的・廊下　一体利用（B）
・　どちらかの教室が多目的スペースで活発な活動を行う際等を想定。



▲全体一体利用
・教室と多目的スペースと　廊下を全て開放利用する。

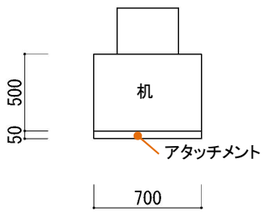


（2）家具計画

・本工事対象外になる什器も含め基本設計段階から検討する。

ロッカー収納物W2000×D450×H1200
★ランドセル　W235×D320×H135（200）　A4フラットファイル対応
★絵の具セット　W340×D140×H130　ショルダーベルト付
★水筒（1L）　W85×D90×H280（横向きに収納）
・裁縫セット　W240×D140×H60（立てて収納）
・習字セット　W342×D230×H52（立てて収納）
・鍵盤ハーモニカ　W465×D145×H54（立てて収納）

★は毎日収納すると想定し、・は利用する週のみ収納を想定する。



2-10　特別支援コモンズ計画

（1）　平面計画

①教室
・30㎡程度の教室とプレイルーム（オープンスペース）を組み合せる。
・1教室最大8人の利用を想定する。（文科省基準）
・児童の学習状況に応じて、移動間仕切りで2部屋に分けて活動することができる。
・掃出し窓からデッキに出入りできる計画とする。

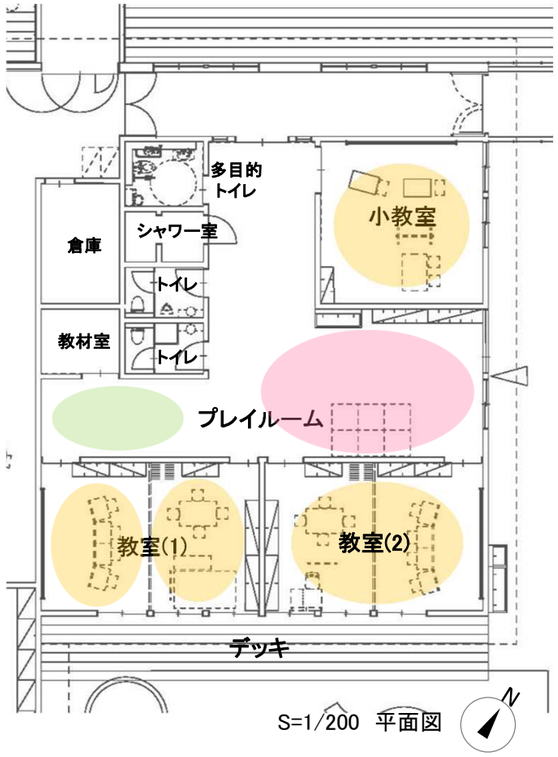
②小教室
・特別支援学級の人数編成に柔軟に対応するため、教室
に転換できる計画とする。

③プレイルーム
・リビング空間のように児童同士の交流やリフレッシュできる空間づくりをする。

④トイレ、水廻り
・車いすやオストメイト等に対応したトイレ、汚した場合に対応できるシャワーブース、コモンズ内で図工や理科等の活動も想定し、作業流し等を備える。

（2）壁面計画

・教室内は出来る限り刺激の少ない空間にし、集中しやすい空間にする。
・掲示物はプレイルームに貼る計画とする。



S=1/200　平面図

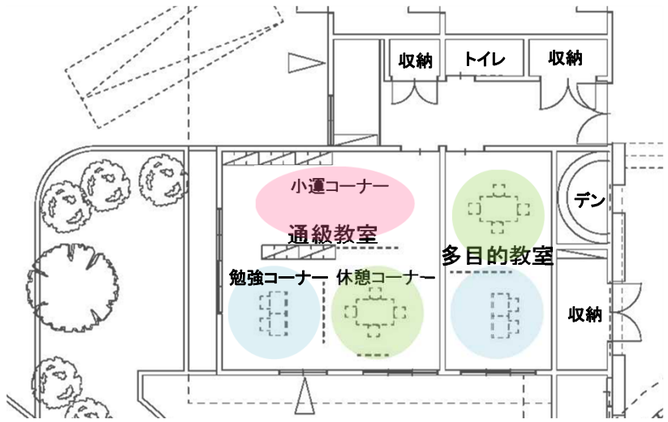
2-11　通級教室計画

（1）　平面計画

①教室
・学年コモンズの教室と同じ大きさとし、変化に敏感な児童にも配慮する。
・教室内で、勉強・軽運動・休憩コーナーを計画する。

②多目的教室
・特別支援学級の編成に柔軟に対応するため、小教室に転換できる計画とし、その他多目的に使用できるよう計画する。

③玄関
・他校通級の児童が自動車で通学しやすい環境とするため、昇降口とは別に設ける。



S=1/200　平面図

2-12　STEAMコモンズ計画

コーナー計画　凡例
個人で　みんなで
集中して　落ち着いて　活動的に

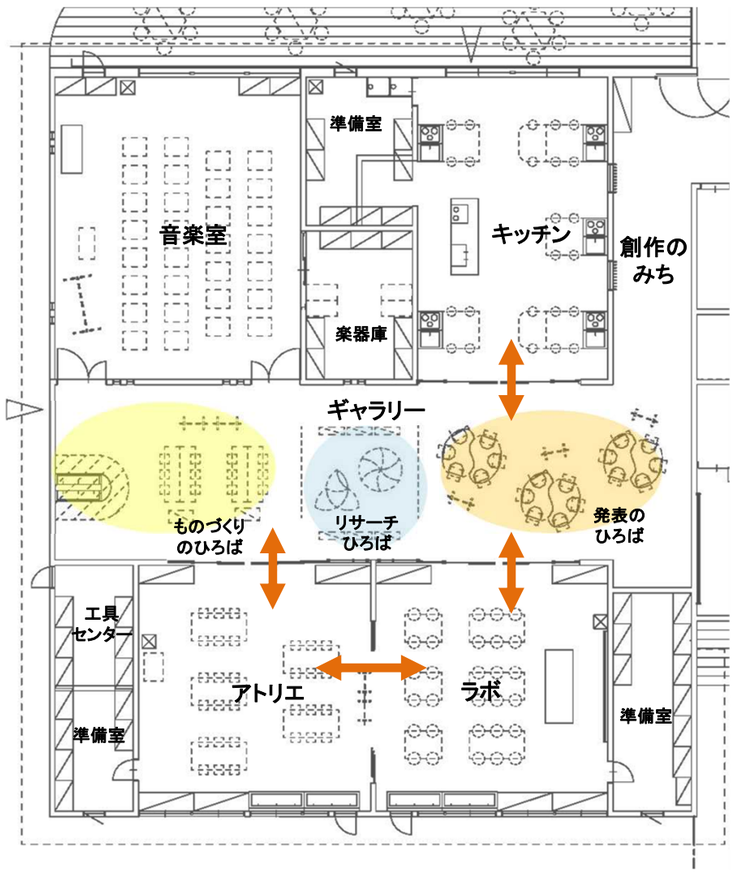
（1）　平面計画

①ギャラリー
・理科や図工、音楽での授業における講義や発表の場、裁縫、グループ作業の場、各教科の授業活動成果の展示・掲示を行う場として想像を駆り立てる場として計画する。
・工具センターは児童が自由に利用でき、創作活動をサポートする場を計画する。

②キッチン
・4人～6人/班×5班を想定。
・固定家具を壁側に配置し、部屋の中央部は自由なレイアウトが可能な計画とする。
・テラスでの試食など、屋外での活動へ繋がる、外部に開いた環境とする。

③音楽室
・合唱や楽器演奏等を心地よく利用できる計画とする。
・遮音性や防音性を高めた教室とする。

④ラボ・アトリエ
・理科と図工の教室を隣接させることで、建具等を開放し相互利用ができる。
・ラボは実験や講義、アトリエでは創作活動の場となる。
・「つくるにわ」と繋がり、屋外活動が可能な計画とする。



S=1/200　平面図

2-13 ラーニングコモンズの考え方

（1） 平面計画

・学校の中心に配置し、学びの中心として位置付ける。
・図書・学習室・多目的ホール・スタジオ（放送）が連続した空間とする。

①図書スペース
・蔵書数1万～1.5万冊の図書を配架可能とする。
・ブラウジングコーナー、閲覧スペース等を取り囲むように書架を配置する。
　探求のひろば：各個人が「分からない・知りたい」を探求する場を計画する。
　共有のひろば：グループでの調べものやまとめを行う場を計画する。
　談話のひろば：読み聞かせの場を計画する。
・スタジオ：校内放送や動画編集や配信を行う。静かに学習する場としても利用可能とする。

②多目的スペース
・図書スペースの延長や学習発表の場として利用を想定する。
・給食時に上段・下段合わせて利用することで120席確保し、全児童が一緒に給食が食べられる計画とする。
・段差部がステージや客席にもなり、発表・式典や集会等にも利用可能な計画とする。

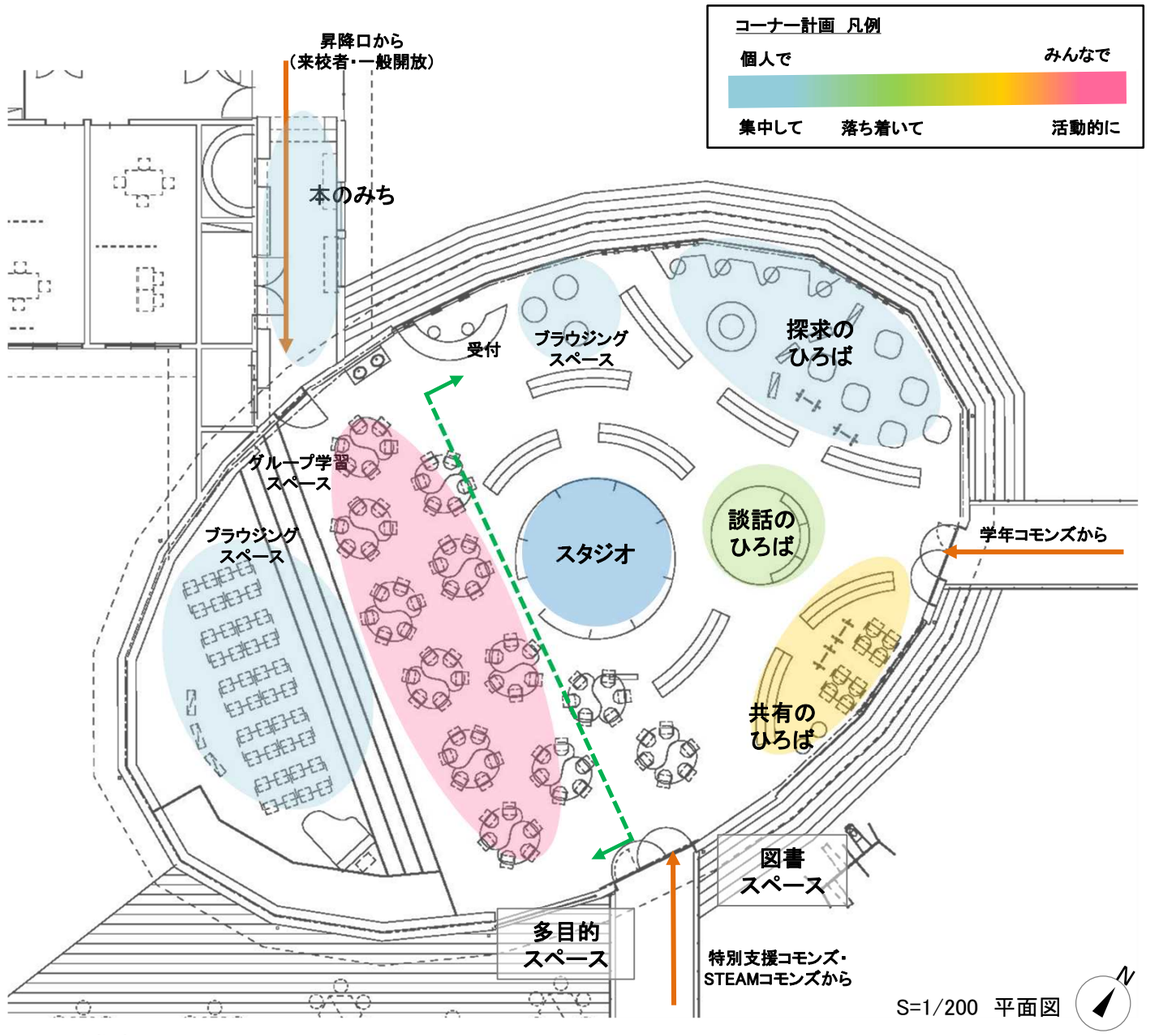
（2） 家具計画

①書架によるコーナーづくり
・コーナーに沿って書架を弧を描くように配置し、本に包まれた空間を計画する。
・書架の高さは学年に合わせて変化させる。
・書架の色は串本町の町章や宇宙をイメージした配色とし、地域の特性を活かした空間として計画する。
・ブックトラックを一部書架として用い、教科やテーマごとに本を収納し読みたい場所に自由に移動可能な計画とする。

②スタジオ
・壁を囲うように本棚を設置し、ラーニングコモンズのシンボルとなるよう計画する。

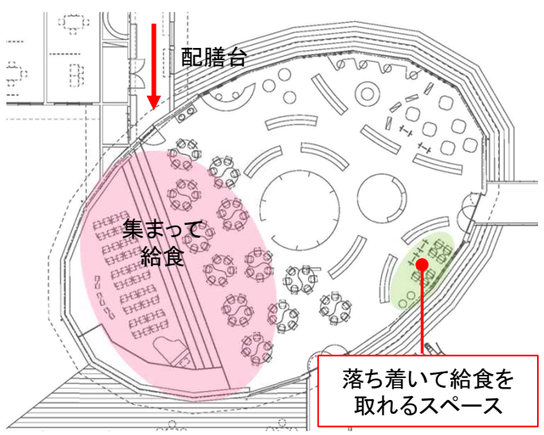
▲ブックトラック（イメージ）

▲ ラーニングコモンズ（イメージ）

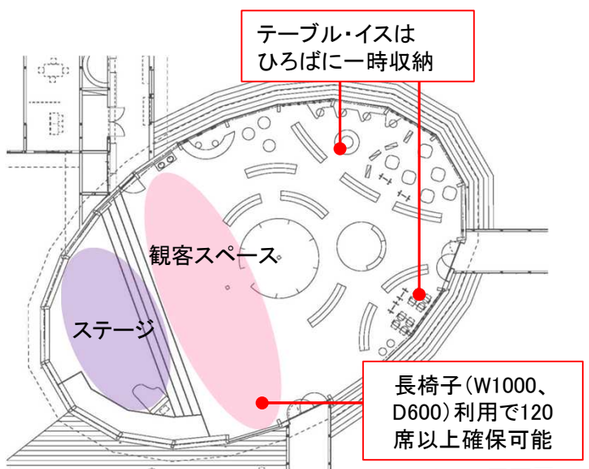


S=1/200 平面図

▲ 通常時

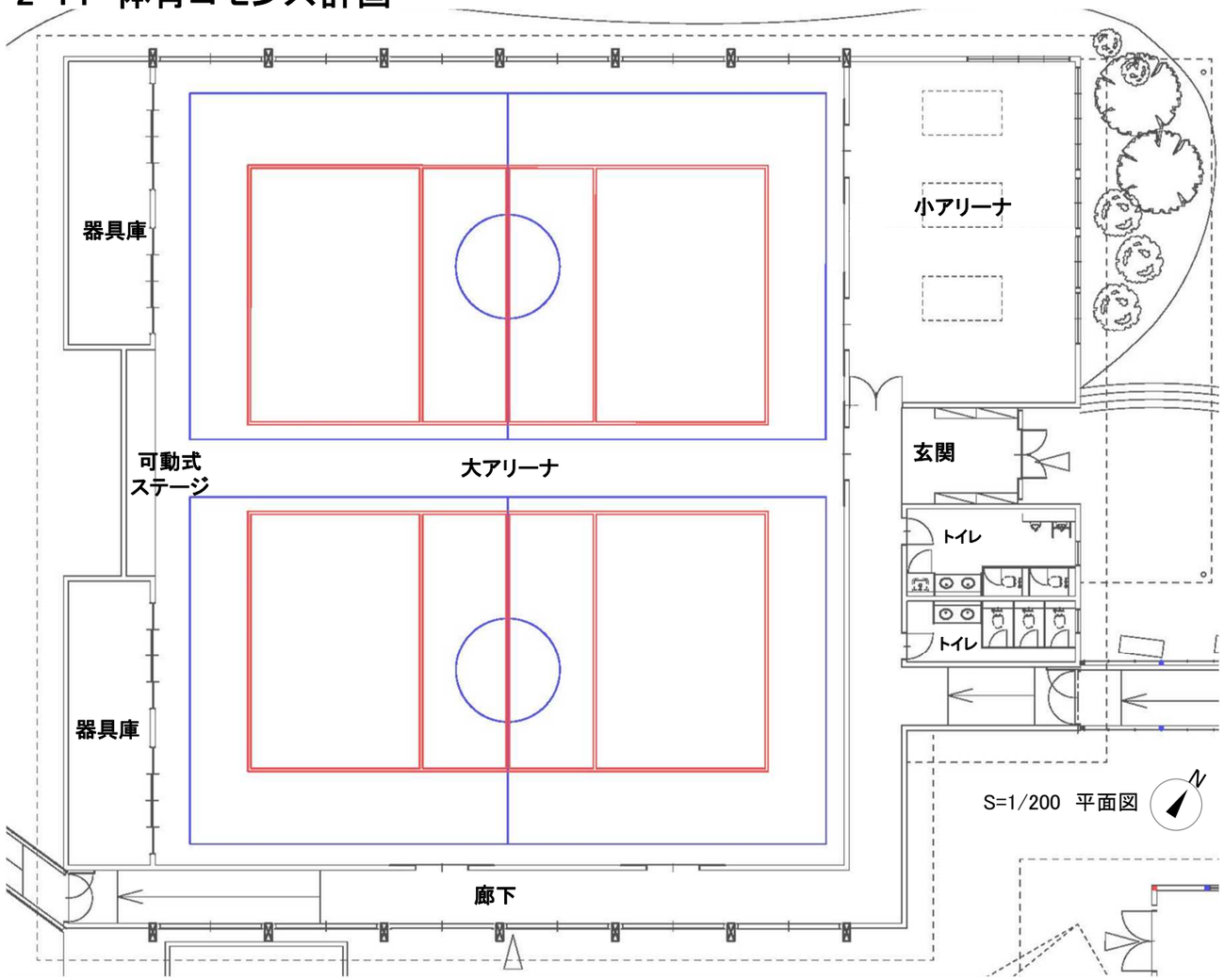


▲ 給食時　S=1/400 平面図



▲ 集会・発表時　S=1/400 平面図

2-14 体育コモンズ計画

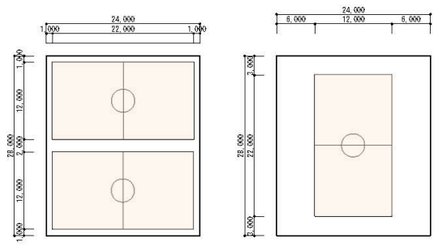


(1) 平面計画

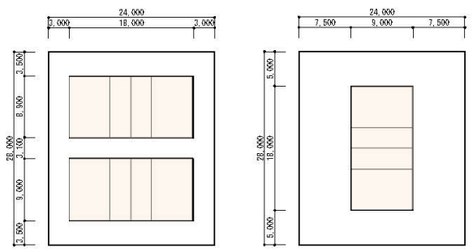
①大アリーナ・器具庫
- ミニバスケットボールコート2面（22m×12m） を確保
- バレーボールコート2面（18m×9m） を確保
- ステージは可動式とし、アリーナの有効利用を図る

②小アリーナ
- 卓球やダンスなどの軽運動が可能な広さを確保。
- 体育の講義授業や地域開放時の会議スペース等の利用を想定する。

③廊下
- 学童保育施設への移動時に濡れないよう、廊下を屋内化させる。

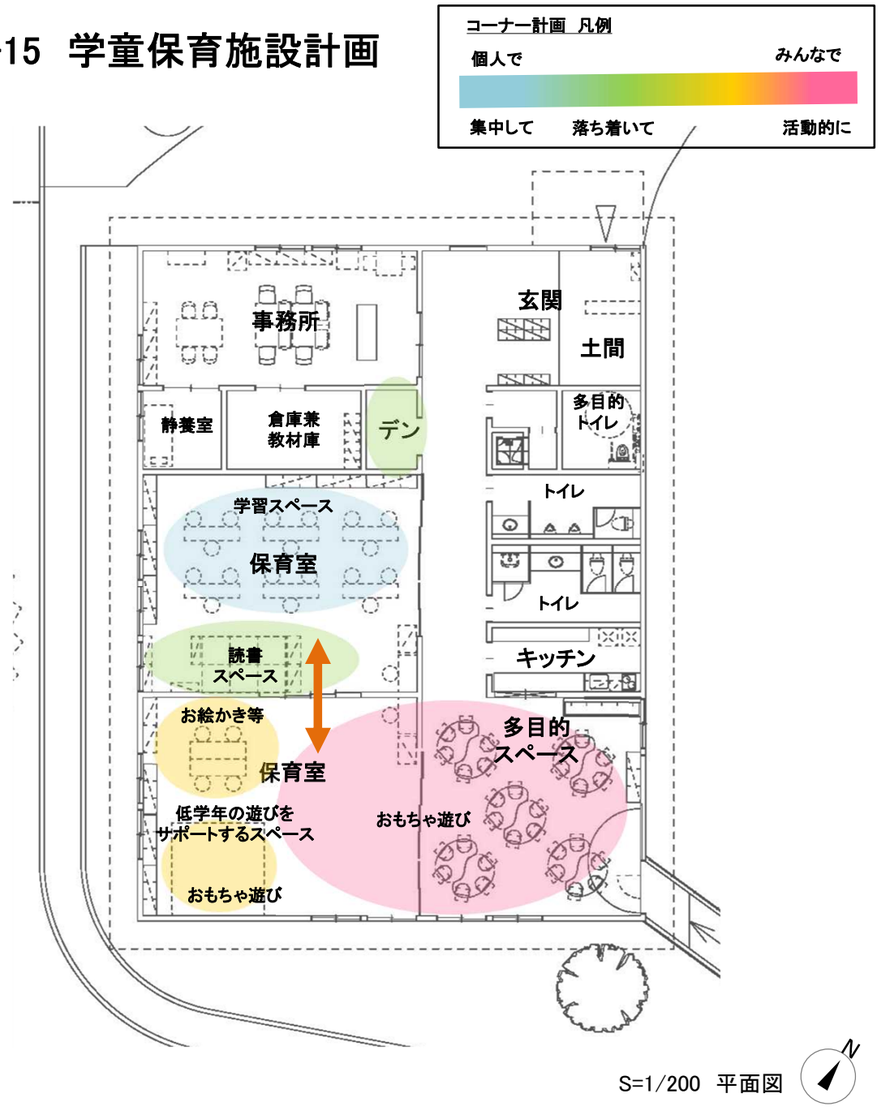


串本統合小学校 ミニバスケットボール配置



串本統合小学校 バレーボール配置

2-15 学童保育施設計画



(1) 平面計画

- 第2の家として児童が安心・リラックスできる空間として計画する。
- 学校施設が利用しやすい動線計画とする。

①保育室
- 定員30名×2部屋として計画する。
- 活動の性格から静かな活動と活発な活動の保育室に分ける。

②多目的スペース
- 保育室の建具を開けることで、保育室とつながる一体的な空間として計画する。
- 家のリビングとキッチンのような関係性を作り、ほっとする空間づくりとする。

③事務室
- 保護者の送迎が確認できる配置とする。

④静養室
- 風通しがよく、事務室と保育室から様子が伺える。

⑤デン
- 様々な空間を用意し、保育室に入りたくない子の対応スペースとしても活用できる。

2-16 外構計画

外構計画の考え方

（1） 舗装計画

・敷地内の舗装は串本の気候を考慮し、浸透性の高い舗装を行う。（インターロッキング舗装等（以下IL舗装））
・車両が通る部分（駐車場部分等）の舗装は、透水性アスファルト舗装等を行い、通行に支障が少ない仕様とする。
・中庭部は上足利用を想定し、IL舗装を行う。
・グラウンドは芝生舗装を行う。

（2） フェンス・防球ネット

・グラウンドより西側道路沿いはフェンスを設けず、高低差を活かし、緩やかな敷地境界として地域に開く
・グラウンドより東側道路沿いは高低差が大きくなるため、安全対策としてフェンスを設置する。
・グラウンド周辺は下部2m程度のフェンスを、上部は防球ネットを設置する。
・南側山沿いは安全対策としてフェンスを設置する。
・近隣の防砂対策として、既存防砂フェンスは存置する。

（3） レベルの考え方

・道路からの各進入路と、こども園からの埋設雨水管のレベルより、できるだけ段差の少ない計画とする。
・災害時や消防活動時の乗り入れを考慮し、グラウンドと一般駐車場は同じ地盤レベルとする。
・誰もが利用しやすい小学校を目指し、スクールバス乗降場と校舎ゾーンは同じ地盤レベルとする。
・道路との地盤レベル差を少なくするため、校舎ゾーンはグラウンドより0.9m上がり、学童保育施設に向かって徐々に高くなる計画とする。

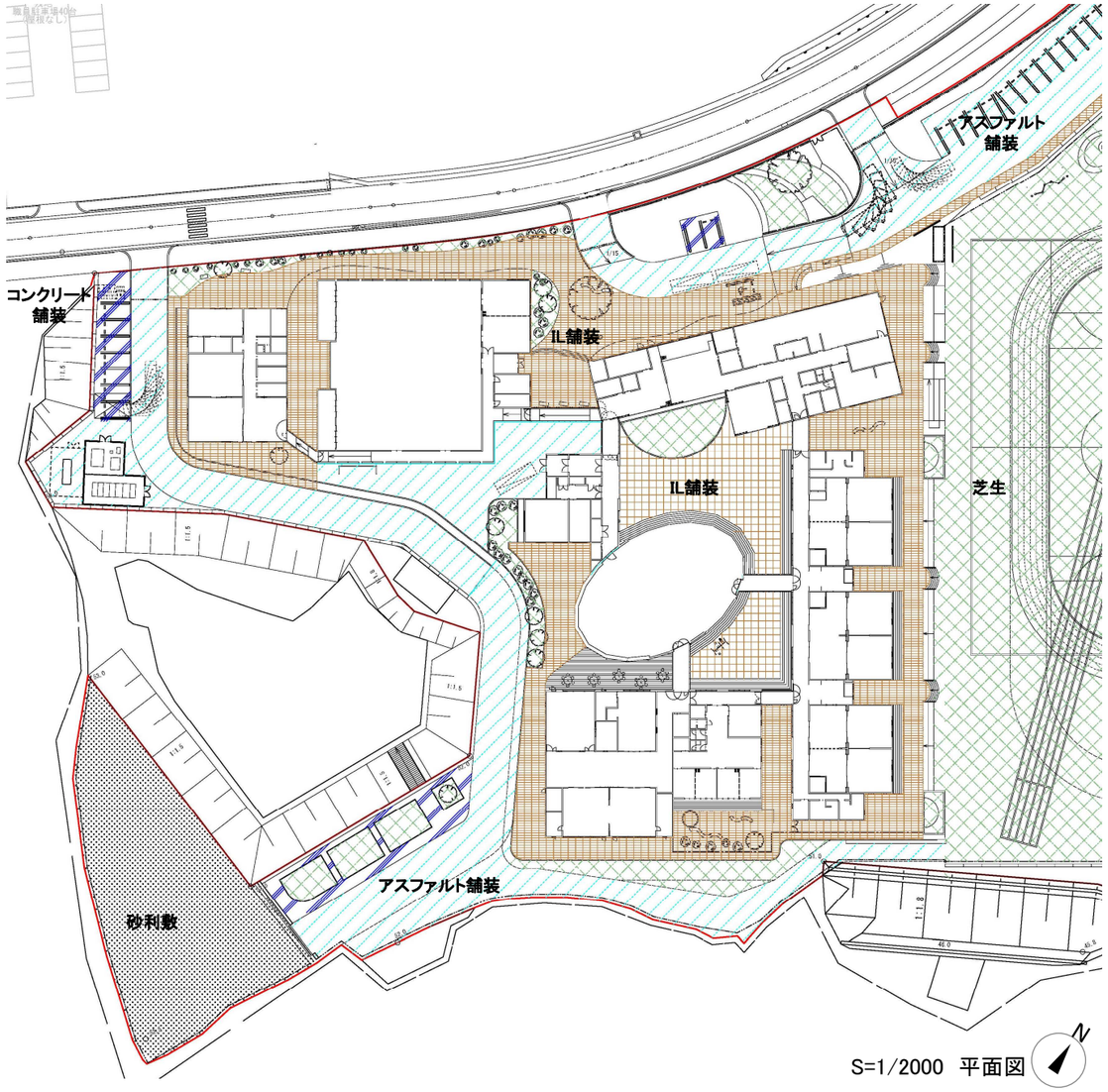
（4）低学年グラウンド

・ヒアリングを基に遊具計画を行う。
・授業で使用する鉄棒などのベーシック遊具に加え、学びや成長を誘発するコンビネーション遊具や小山の設置を検討する。

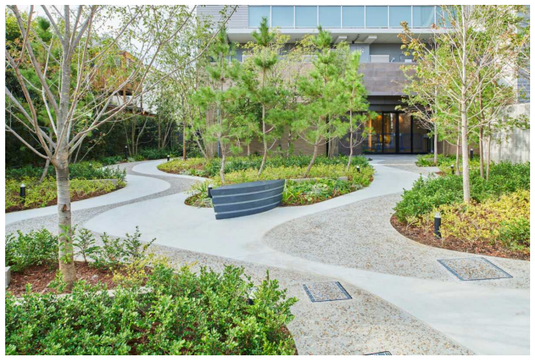
（5）小規模遊び場

・アプローチ広場
児童・職員はもちろん、ラーニングコモンズや体育館を利用する地域の人々を出迎える広場を配置する。
ベンチや四季を感じる樹木を適宜配置することで、児童同士のコミュニケーションや児童と地域、地域の人同士の交流を促す場とする。
・学びや生活の延長空間となる「にわ」
児童の生活の場の延長として、「にぎわい・ひだまり・うららか・おだやかな」にわを計画します。
学びの延長として、「育てる・つくる・思いやる」にわを計画します。

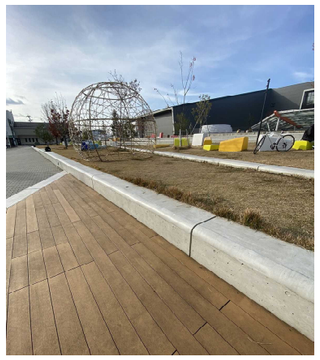
にぎわいのにわ
学童の送迎時の交流や保育時の活動の場。
ひだまりのにわ
低学年の遊びや活動の場。
うららかなにわ
通級教室の児童の気分転換の場。
おだやかなにわ
特別支援学級の児童が気分転換や軽い運動を行う場。
思いやるにわ
特別支援学級の児童が落ち着くための遊具を配置する。中高学年コモンズと特別支援コモンズに面することで、教室での活動が屋外に広がり、安心して学習活動ができる。
育てるにわ
学級花壇や菜園を育てる場。
つくるにわ
創作活動を行う、授業で扱う植物を植える場。



S=1/2000 平面図



▲アプローチ広場 舗装イメージ



▲アプローチ広場（だんだん） イメージ

2-17　環境配慮計画

(1)　基本方針

・自然との共生や自然を生かした環境負荷低減に考慮し、その仕組みや効果を環境教育に活用する。
・災害及び環境対策の知識を発信する場として、児童のみならず地域住民を含めた町民の意識を啓発できる施設整備を行う。

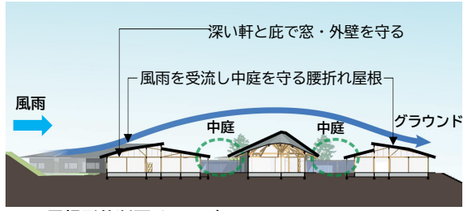
(2)　木の学校づくり

・串本の地域性より、塩害対策に最も有効な木造の校舎を計画する。
・平屋建てで床面積1000㎡以下に分節した木造を採用することで、小屋組みや柱などを現したやさしい校舎とする。
・分節した棟の接続部は耐震・耐火要素として耐火構造とし、地震や火災に強い、より安全な計画とする。
・壁や間仕切、フローリング等には地産材使用を検討し、地元木材の積極的な利用を図る。

▲木架構イメージ（ラーニングコモンズ）

(3)　地域の気候・風土に応える建築

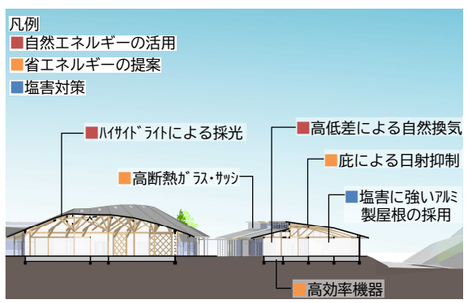
・串本町の湿度の高い気候と合わせ、内装材の木質化を図ることで、木材の調湿効果により結露を防ぎ快適な室環境を目指す。
・雨が激しく降る天候に対して、バスの乗降場から昇降口は大屋根を掛け、各棟との接続は屋内渡り廊下とする。
・中庭部分を包むような校舎配置と屋根形状で安全な環境を確保する。



▲屋根形状断面イメージ

(4)　環境負荷低減手法

①熱負荷の抑制と自然エネルギーの利用
・高断熱：屋根の高断熱化を行う。窓ガラスは複層ガラス（Low-E）とする。
・自然採光、通風：ハイサイドライトにより積極的に自然採光や通風を取り入れ、建物全体で効率的に換気を行う。
・日射遮蔽：庇により夏季の直射日光を遮蔽し、熱負荷を低減する。
②高効率設備機器の採用
・高効率機器：省電力で二酸化炭素を削減できる効率の良い空調機器を検討する。
・高効率照明：LEDを採用し、電力消費の低減を図る。
・照明点滅システム：トイレに人感センサーを設置し、非使用時に消灯することにより電力消費を低減する。
・節水器具の採用：トイレの器具は節水型とし、水資源を節約する。
③維持管理性の向上
・長くきれいに使用できる仕様にすることで、環境への負荷を低減する。汚れにくく互換性に優れた仕上げ材料を選定する。



▲ラーニングコモンズ・教室コモンズ断面イメージ

2-18　地域開放計画

(1)　基本方針

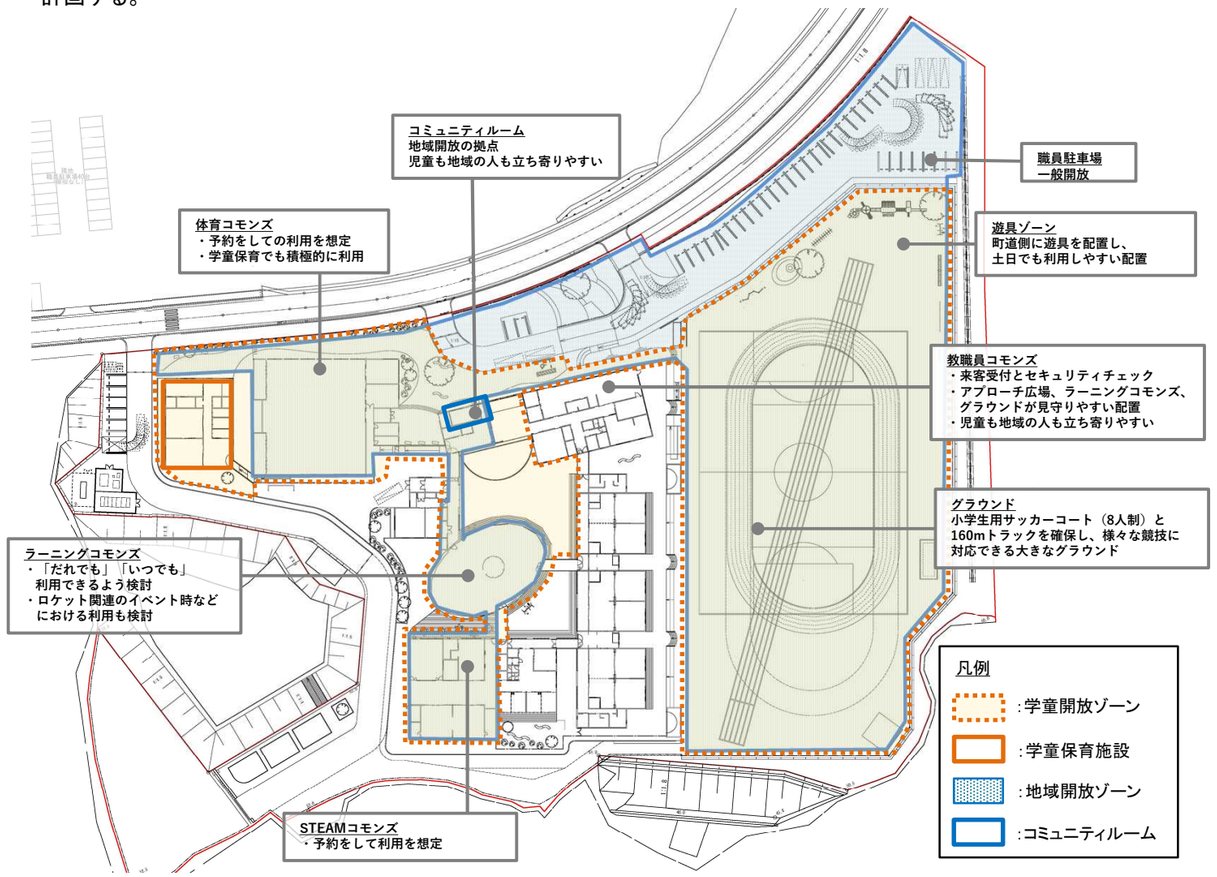
児童だけでなく、地域に住む中高生や大人達も利用できるよう地域コミュニティルームを中心にラーニングコモンズや体育館、グラウンド、STEAMコモンズ、会議室を地域開放する計画とする。

(2)学校施設の地域開放

①地域交流・活動の拠点となるコミュニティルーム
・昇降口に隣接するようにコミュニティルームを配置する計画とする。
・談話できるスペースやミニキッチンを設け、地域の集まりやラーニングコモンズを訪れた人の休憩時にも利用可能な計画とする。
②まちの体育館
・体育館は外部からアクセスしやすい町道側に配置し、気軽に立ち寄れる計画とする。
・体育館の夜間利用により、体育館の明かりが優しく夜道を照らし、地域の活動を感じられる計画とする。
③まちの図書館としてのラーニングコモンズ
・ラーニングコモンズは授業時以外はいつでも気軽に立ち寄れる計画とする。
・一人や友人同士での利用や、地域のクリスマス会といった地域イベントの利用も想定している。

(3)学童保育施設とこども園の連携

・学童保育施設は学校の敷地内に配置し、こども園に最も近い位置に配置する。
・学校はもちろん、こども園との連携を図る。
・学童は児童の第2の家のように感じられるようなレイアウトや設えとする。
・施設自体はコンパクトにし、学校施設であるラーニングコモンズや体育コモンズ、グラウンドを最大限利用できるよう計画する。



▲開放ゾーン範囲図　S=1/3000

2-19 防災計画

(1)基本方針

・児童及び地域の避難所として、安全性の確保、有事の際の円滑な運営を可能とするスペースの確保、施設整備を考慮した計画とする。
・教育、保育機能の早期再開を目指した計画とする。
・小学校やこども園、庁舎、サンナンタンランド等のサンゴ台の他の施設と連携し、地域全体で防災機能を分担する計画とする。

(2)予防対応

①施設面

・十分な耐震性を確保し、2次部材の落下を防ぐ計画とする。
・避難滞在によるトイレ不足に対応できる設備・備品を整備する。
・主な避難スペースとなる体育コモンズ近くに防災備蓄倉庫を整備する。
・地域の特性から車移動を前提とし、グラウンドやイベント駐車場も含めて避難者の駐車スペースを確保する。
・消防活動はグラウンド西より進入し、学童保育施設側からも反時計回りに進入できる計画とする。

②運営面・地域連携

・平常時から地域と連携し、スムーズな避難所の運営を可能にする。
・敷地南側にある津波避難路を活用する。
・避難者数に応じて段階的に避難所スペースを開放する。

(3)有事対応

①体育コモンズ

・メインアリーナは避難所、小アリーナは要配慮者スペース、ミーティングスペースは救護・更衣室とし、避難所として中核を担う計画とする。
・個々人の状況、感染症等への不安等に最大限配慮できるように工夫する

②通級教室・ラーニングコモンズ、STEAMコモンズ

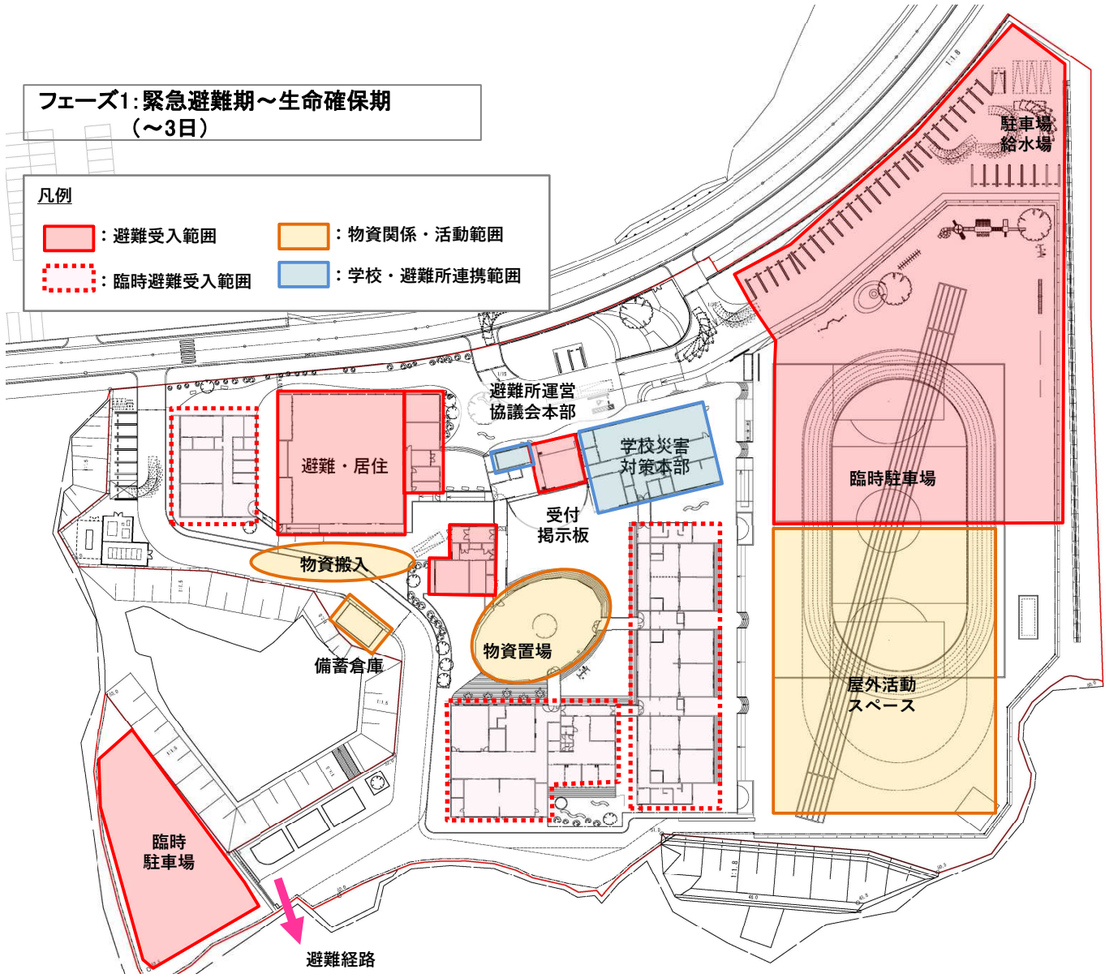
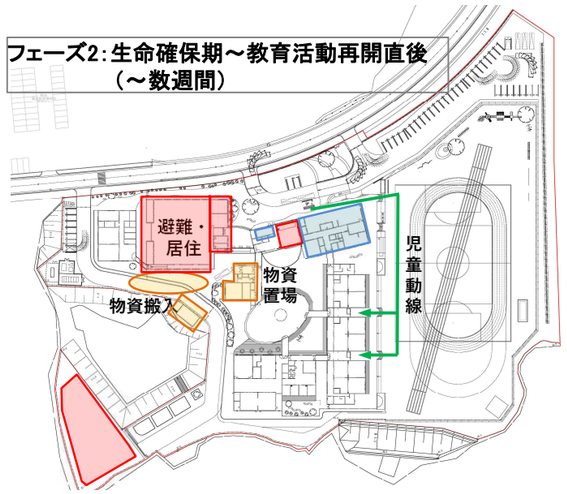
・通級教室と体育コモンズ南側は臨時玄関や物資の搬入口となる。ラーニングコモンズとSTEAMコモンズは物資置場や食堂、子どもの遊び場など避難者の人数や状況に応じて柔軟に利用状況を調整する。

③教職員コモンズ

・コミュニティルームは避難所運営協議会の本部として利用可能、職員室・会議室は学校災害対策本部となる。

④学年コモンズ、特別支援コモンズ、学童保育施設

・災害直後などの臨時利用として想定する。

(4)災害フェーズと教育再開

・災害発生直後から教育・保育活動再開するまでをフェーズに分けて避難に対応する。
【フェーズ1】
避難者を受け入れ、物資搬入や自動車での避難に対応する計画とする。
【フェーズ2】
教育・保育活動として必要なエリアと避難エリアが明確に区分けでき、早期に学校再開ができる計画と する。
昇降口は避難受付や掲示機能を持つため、児童は学年コモンズの玄関から出入りする計画とする。
【フェーズ3】
教育・保育活動再開後は学校エリアと避難エリアが明確に区分けができ、学校運営に影響が少ない計画とする。